

令和5年度 学力向上指導改善プラン

三田市立小野小学校長 山本 司

学校教育目標		心豊かにたくましく 自ら学び 人とつながる 小野っ子の育成						
推進主体		管理職、学校教育改革推進委員会を中心とした学力向上委員会						
学力に関する前年度の状況・経年の課題等								
		4月	2～3月					
		学力向上に向けての重点的な目標	成果となる目標 (指標となる数値等)					
			具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)					
			年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)					
			評価					
学 力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数、算数に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	○内容項目の知識及び技能、思考力、判断力、表現力等においても全国平均を上回り、とくに、「話すこと・聞くこと」領域で、12.4ポイント、「読むこと」領域では、19.1ポイント全国平均を上回って、「思考・判断・表現」の観点で理解が深まっていた。 ◆「書くこと」において、全国平均を5.6ポイント下回り、課題があった。(経年)	・自ら問いを持ち、課題解決に向けての話し合いの中で、考えたことを相手や目的、意図に応じて話したり、理由や根拠を説明したりする中で「自分の考えを書くこと」を取り入れ、必要な能力を高める。	・全国学力・学習状況調査、単元テストの平均正答率で、到達度の目安となる全国平均正答率を上回る。	・「書くこと」「話すこと」を授業の中に積極的に取り入れ、自分の考えを持ち、友達の意見と似ているところや違うところを比べながら聞く等の活動を行う。 ・自分の考えを書く、質問や付け足しをして話し合いをする、など、言語活動の活性化によって、一人ひとりの理解を深める。	○全国学力調査では、「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるか」を問う設問で、正答率が100%で全国平均を26.0ポイント上回った。 ○自分の考えを持つ、友達の考えと比較しながら聞く等、言語活動を活性化し、子どもたちが主体的に取り組む学習に継続して取り組んだ成果が、子どもたちの話す力・聞く力となって表れてきている。	A
		算数	○「数と計算」、「図形」、「変化と関係」「データの活用」の全領域で、全国平均を上回っていた。また、「思考・判断・表現」の観点において全国平均を14.7ポイント上回り、とくに記述式の設問で25.5ポイント上回るなど、数学的思考の深まりが見られた。 ◆領域では「変化と関係」「データの活用」、観点別では「知識・技能」において、設問によって全国平均を大きく下回り、課題が見られた。	・友達の発表に対して質問や付け足しをして、話し合いをするなど、対話を取り入れた授業展開の中で、「自分の考えを分かりやすく説明する」「資料やデータを活用する」などの必要な能力を育成する。	・全国学力・学習状況調査、単元テストの平均正答率で、到達度の目安となる全国平均正答率を上回る。	・自分の考えをノートや黒板、iPadを使って発表したり、図や表を使って説明したりする活動を積極的に行う。 ・題意把握、自力解決、集団解決において資料やデータ、具体物や半具体物、絵や図などを活用した活動を通して理解を深める。	○「数と計算」の領域の「示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるか」を問う設問で、正答率が全国平均を32.2ポイント上回った。 ○自分の考えをノートや黒板、iPadを使って発表したり、図や表を使って説明したりする活動を積極的に進めた成果が表れている。	A
		ICT機器を効果的に活用した取組状況	○◆学校評価・児童アンケートの結果では「授業でもっとコンピュータなどのICT機器を使いたいと思いませんか。」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて72%であった。タブレット端末(iPad)の導入で、子どもたちの学習意欲が高まっている。より効果的な使い方を工夫していく。	・資料やデータを使って自分の考えを説明する、資料の提示の仕方を工夫する、プレゼンを作成するなど、「友だちとの対話を通して学びを深める授業」に、ICT機器を積極的に活用して授業改善を図る。	・全国学力・学習状況調査の質問紙、学校評価の児童アンケートの「ICT機器の活用」についての結果で、昨年度を上回る。	・各教科で資料を提示したり、データをもとに話し合ったりする活動にタブレット端末を活用し、情報の収集、整理、分析等の技能の伸長を図る。 ・タブレット端末を活用した協働的な学習の充実、情報の整理等を学習に位置付け、思考の可視化、操作化を促す。	○全国学力調査の「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問で、肯定的な回答が88.9%と全国水準より20%高くなった。 ○◆来年度も、タブレット端末を使って発表したり、図を使って説明したりする活動に取り組む、考えを表現したり、考察したり、判断したりする力を伸ばす。	B
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○年度初めの学力テストで、各児童の学力の把握し、学習の基本となる漢字・計算の習熟を図る。 ◆家庭と連携を取り、個別の補充学習を行っていく必要がある。	・テストやプリントによる評価を活用し、基礎的な学習の定着を図ることで、すべての児童が学ぶ喜びを感じる授業づくりを進める。	・個別学習、補充学習等により、確実な定着を図り、単元テスト等で見取っていく。	・年度初めの学力テスト等で、各児童の学力の把握を行い、結果を授業改善、個別支援に活かす。 ・プリントやドリル、ミライシードを活用し、朝学習等で取り組むとともに、家庭学習との連携を図る。	○年度初めに学力テストを行い、各児童の漢字、計算の学力について把握し、個別支援に活かすことができた。 ◆学校評価を受け、ミライシードを活用し、朝学習等で取り組むとともに、更に家庭学習との連携を進める。	B	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	○国語科でフリートークを取り入れ、児童が主体的に学ぶ学習展開の研究に取り組むことができた。 ○算数を中心に学習の「めあて」と「ふりかえり」を運動させ児童が学びを実感できる授業を工夫した。	・さらに取り組みを進め、児童一人ひとりが主体的、意欲的に取り組める授業展開を工夫していく。	・全国学力・学習状況調査の質問紙、学校評価の児童アンケートの結果で昨年度を上回る。	・国語フリートークによる学習、算数ガイド学習の研究に基づき「子どもたちが進める学習」を展開する。 ・「めあて」と「ふりかえり」を運動させ、児童が自ら学習に向かい、学びを実感できるようにする。	○「めあて」と「ふりかえり」、自力解決と集団解決を取り入れ、「子どもたちが進める学習」に取り組むことができた。 ◆全国学力調査の結果、国語に関しては好きな児童が88%であったのに対し、算数・外国語は30～40%と低い回答となった。	B	
	学力向上に係る生活習慣等の状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況 学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	○「規範意識」「生活習慣・学習習慣」については概ね良好である。 ◆「読書は好きですか」の質問で、肯定的な回答が全国平均を30ポイント以上下回り、比較的低い。 ○普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか?で「1時間以上」の回答が全国平均を上回った。 ◆「勉強は好きですか」を問う設問では、国語、算数、理科で肯定的な回答が42.9%であった。	・図書室利用の活性化、隙間読書の設定、音読カードによる家庭学習の習慣化等を継続していく。 ・家庭学習の充実、読書習慣作り等に取り組んでいけるよう家庭と連携していく。	・質問紙、学校評価の児童アンケートで「読書が好き」「読書時間」の結果で昨年度を上回る。 ・家庭学習の課題について、家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」等で具体例を示しながら、家庭学習、読書習慣の定着を図り、学校評価アンケートによる評価の向上を目指す。	・学校司書と連携した図書室の利用の活性化、隙間時間を利用した読書タイム「おのっ読書」の設定、国語科と連携した音読カードによる家庭学習の習慣化等を図る。 ・毎日の音読カードやミライシードのドリル学習を活用した取り組みを通して、家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」の活用につながる家庭学習との連携を進める。	○学校評価の児童アンケートで「はい」と答えた児童が78%となった。 ◆「おのっ読書」の取り組みで、読書が好きな児童が増えた。「おのっ読書」の日の設定、読書通帳達成やブックフェスティバル等の意欲付けができた。 ○年度初めの学級懇談において家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」で具体例を示すことができた。 ◆音読、漢字・計算の復習等の継続から始める、自主学習ノートを用いる等、自分から家庭学習に取り組めるよう支援していく。	A
校 内 研 究 ・ 研 修	校内研究の状況	○フリートークを取り入れるなど、授業改善に取り組んでいる成果が表れてきている。 ◆授業の改善、支援の方法等の共有化を図る。	・国語フリートークによる学習、算数ガイド学習の研究を中心に、児童が主体的に取り組む学習の研究を進める。	・全国学力・学習状況調査の質問紙、学校評価の児童アンケートの結果を取り入れ、研究目標の成果を数値の向上で見取る。	・授業公開、授業研究に取り組み、研究テーマに沿って、子どもたちに付けたい力や授業のポイントを交流し、共有することで授業改善を進める。	○「フリートーク」による学習の研究を通して、言語活動を活性化し、主体的に取り組む学習に継続して取り組んできた成果が、全国学力調査等の子どもたちの話す力・聞く力となって表れてきている。	A	
	校内研修の状況	○国語、算数、人権学習、生活指導に関する児童理解の研修等を計画的に行うことができた。 ○小規模、複式の課題を明確にした研修を行う。	・学力向上に向けての研修と生活指導、特別支援等についての研修を効果的に組み合わせる研修を行う。	・年間の研修の回数、具体的な内容を設定し、PDCAサイクルを全職員で共有して、学校評価等で、取り組みの検証、検討を行う。	・フリートークを取り入れた学習、ガイド学習、児童理解等についての研修、今日的課題に対応した研修を計画的に行い、職員の共通理解を進める。	○児童理解、フリートーク、人権教育についての研修を計画的に行い、職員の共通理解を進めることができた。 ◆学校評価を受けて、ガイド学習、ICTの活用等、更に課題に対応した研修を行っていく。	B	
家 庭 ・ 携 校 種 間 連	家庭・地域等の状況	○保護者、地域による参観、学校行事への参加を年間行事に位置づけて設定、実施した。 ◆地域人材の活用等を積極的に進めていく。	・「開かれた学校づくり」を推進し、保護者、地域の学校教育への関心を高め、連携を深める。	・保護者、地域参加の学校行事等について、学校だけでなく、学級通信、学校メール等で積極的に情報を発信し、保護者アンケートで内容の評価、検討を行う。	・年間行事に位置付けた保護者参加行事の設定、各教科や総合学習における地域人材の活用、学校地域運営協議会による学校評価の連携を進める。	○保護者アンケートで、コロナ禍の影響が減って行事に参加された保護者が増えた。本年度は「小野小学校創立150周年」でも地域の協力をいただいた。 ◆コーディネーター、窓口等、地域人材活用の連携体制をとる必要	B	
	小・中における教科連携等の状況	○授業参観等を行い、各校の課題の把握や共通理解を図った。 ◆校区の目指す子ども像を「将来の夢や目標を持ち、挑戦する子ども」とし、小中連携を推進していく。	・これまでの中学校下四校交流の取り組みを継続し、共通した学習習慣、学習規律の策定等に向けた小中学校間の連携を深める。	・交流会、連絡会、担当者会等を定期的に開催し、回数や内容についての検証、検討を行う。	・各校児童の交流、合同での行事開催、職員相互の授業参観、合同研修会を通じて情報を交流し、児童生徒理解、教育課題を共有する。	○小中連携により、質問紙の中学校区での合同分析で、学校生活が安心・安定しているという結果につながることができた。また、家庭学習や英語学習の課題について共有することもできた。	A	